



DC10

- <系統> 高意匠性水性特殊架橋形塗材
- <適応下地> コンクリート、モルタル、PCパネル、ALC パネル、スレート
- <特長> 1)コテやローラー、吹付けで仕上げる意匠性の高いテクスチャーが可能
2)土壁調やしっとり調の伝統的な質感の仕上がりが可能
3)水性であり取扱いが容易

<塗料性状>

項目		内容
1	荷姿	20kg
2	色	白
3	光沢	艶無し
4	比重(20℃)	1.67~1.73
6	引火点	なし
7	消防法による危険物区分	なし
8	有機溶剤区分	なし
9	有害物表示	なし

<塗装基準>

- (1)開缶後、水道水(井戸水は除く)を加えて攪拌し粘度調整して使用する。
- (2)希釈材 水道水(井戸水は除く)
- (3)標準使用量と膜厚

塗装方法	コテ仕上げ(フロー仕上げの場合)	
	基層塗(金ゴテ)	模様塗(金ゴテ)
希釈率	0~3%	0~3%
標準使用量	0.5~1.0kg/m ² /回X1回	1.0~1.5kg/m ² /回X1回
塗装間隔(20℃)	基層-模様間16時間以上	模様-上塗り間48時間以上

塗装方法	吹付け(ジュラク仕上げの場合)	
	基層塗(リシンガン)	基層塗(リシンガン)
希釈率	10~15%	10~15%
標準使用量	0.5~0.7kg/m ² /回X1回	0.5~0.7kg/m ² /回X1回
塗装間隔(20℃)	基層-模様間16時間以上	模様-上塗り間24時間以上

※標準使用量は平滑面への塗布を想定しており、被塗物の形状、素地の状態、気象条件、希釈率により幅を生じ増減します。

※ 塗装間隔は、塗布量、通風、温湿度および素地の状態によって異なります。

<適用下塗> 下塗:SR11、RP51

<適用上塗> 上塗:ECO-EX、SR11

<注意事項>

- ・下地は十分に乾燥させて下さい。(含水率10%以下、pH10以下)
- ・下地のレイタンス、エフロレッセンス、未硬化セメント粉、土砂、ゴミ、ホコリ、油脂類、離型剤はブラシがけ、サンダーがけ、高圧洗浄機による洗いなどにより完全に除去して下さい。
- ・塗り替えの場合は、旧塗膜をよく調査して、状況に応じたケレンにより、下地を整えてから塗装して下さい。
- ・塗装場所の気温が5℃以下、湿度85%以上の場合は塗膜の乾燥過程で様々な欠陥を生じますので塗装を避けて下さい。
- ・降雨、降雪の恐れがある場合及び強風の時は塗装を避けて下さい。
- ・下地の巣穴、クラック、不陸、目違い等はあらかじめ樹脂モルタルで平滑にして下さい。

<安全衛生上の注意>

1. 作業前
 - ・本品は業者専用品ですので塗料としての用途以外に使用しないで下さい。
 - ・指定された以外の材料と混合しないで下さい。
2. 作業場所
 - ・塗装中、乾燥中ともに換気をよくし、その後も塗料の臭気なくなるまでは、時々換気をして下さい。
 - ・居住者、隣家、車両等へ塗料ミスト・臭い・蒸気等が飛散しない塗装方法を選択すると共に十分な養生を行なって下さい。
3. 作業時
 - ・取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスクをつけ、さらに保護めがね・頭巾・保護手袋・長袖の作業着・襟巻きタオル・前掛等を着用して下さい。
 - ・衣服等に付着した場合は、直ちにその汚れをよく落して下さい。
 - ・容器はみだりに転倒させ、落下させ、衝撃を加え、また引きずる等の粗暴な行為をしないで下さい。
 - ・塗料を出した際はその都度ふたをして下さい。
 - ・容器からこぼれた場合にはすべり、流出の危険がありますので直ちに拭き取って下さい。
 - ・取り扱い後は手洗い、うがい、鼻孔洗浄を十分に行なって下さい。
4. 保管時
 - ・容器は蓋をすると共に直射日光、高温(40℃以上)、高湿を避け火災、腐食、凍結(0℃以下)等の恐れのないところに保管して下さい
 - ・子供や部外者の出入りしないところに保管して下さい。
5. 廃棄時
 - ・廃塗料、廃容器、洗浄水、洗浄容器等は産業廃棄物として処理して下さい。(排水溝、地面、河川等に流さないで下さい)
6. 応急処置
 - ・目に入った場合には直ちに多量の清水で15分以上洗浄し、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい
 - ・皮膚に付着した場合は直ちに多量の石鹼水で洗い落とし、痛みまたは外観に異常のある場合は速やかに医師の診察を受けて下さい。
 - ・臭いを吸って気分が悪くなった時は空気の清浄なところで安静にし、必要に応じ医師の診察を受けて下さい。
 - ・誤って飲み込んだ時はできるだけ早く医師の診察を受けて下さい。

※詳しい内容が必要な場合は製品安全データシート(MSDS)をご参照下さい。